

厚生院看護学校建て替え

函館 来春開設、延べ床面積1.5倍



函館厚生院が建て替えを予定する看護専門学校の完成予想図

函館中央病院や函館五稜郭病院を経営する函館厚生院（高田竹人理事長）は、函館市本町の函館厚生院看護専門学校の建て替えに着手する。現施設が建築後40年近く経過して老朽化したため、隣接地に新築。延べ床面積を現状より1.5倍

以上拡充し、学習環境の向上を図る。

9月に新築工事に入り、来年4月の開設を予定。新校舎は鉄骨造地上4階建て延べ床面積は約3千平方メートル、看護科3年課程で1学年40人の定員はそのままとする。学校に加えて厚生院

本部と薬局も入るが、学校部分だけで約2500平方メートル、従来の約1600平方メートルより広くなる。総事業費は約8億5千万円。

4階建ての現校舎は1978年の建設。経年により学生数に対するベッド数など、厚生労働省が求める現行基準を満たさなくなっていた。

新築後は現在、学生5人に1人のベッド数を4人に1人に拡充。現校舎ではスペースがないため、設置できなかった新生児・小児ベッドも整備するなど、実習に必要な機能を向上させる。また、図書室に自動貸出機を導入するほか、従来大部屋を使っていたゼミ室を個室にするなど、環境面も考慮した。

同校の卒業生は8割ほどが市内で勤務しており、高い地元就職率が特長。厚生院は「教育環境を向上させ、

地元で就職する優秀な人材を輩出し続けたい」と話している。
（福本泰範）